

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

岐阜県立下呂特別支援学校

学校番号

118

自己評価

学校教育目標	地域社会で主体的に生活する力を育てる ～一人一人の障がいの状況や特性に応じた教育活動を通して、 個々のもてる力（個性）を高め、生きる力を育む～
--------	---

評価する領域・分野	安全管理
現状及びアンケートの結果分析等	<ul style="list-style-type: none"> ・通学区域が山間の地域が多く、気象状況の急激な悪化や獣害など、この地域ならではの課題が発生する。 ・保護者、学校運営協議会委員を対象とした学校評価アンケートの「学校は、児童生徒の安全に気を配り、緊急時の対応がしっかりしている。」では、「あてはまる」「ややあてはまる」を合わせて95%の状況である。 ・全校児童生徒44名の小規模校であり、児童生徒や保護者のニーズに具体的にイメージしながら検討できる。
今年度の具体的かつ明確な重点目標	<p>児童生徒にとって安心、安全な学校づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害や事故、事件など児童生徒の安全を脅かす状況から守る。 ・児童生徒の様々なトラブルや不安に対して丁寧に対応し、安心感をもって生活できる環境を確保する。
重点目標を達成するための校内組織体制	<ul style="list-style-type: none"> ・保健安全部や生活支援部が中心となって、命を守るための様々な状況に対応した現実的な体制の確立と防災教育や職員の研修を実施する。 ・防災対策委員会、スクールバス検討委員会を中心として、発生する状況に対して確実に安全な対応を検討し、実施する。 ・生活支援部、特別支援教育コーディネーターが中心となって、児童生徒（保護者も含む）が安心して思いを伝えることができる環境づくりを行う。
目標の達成に必要な具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練を含む月1回の防災を学ぶ機会を習慣化する。 ・ヒヤリハット事例を共有し、再発を確実に防止する。 ・今後起こり得る危険な状況や新たに発生した生活を脅かす状況への組織的な検討や対策、研修の実施を行う。 ・こころの相談アンケートや個別懇談など、様々な機会を通して保護者を含む児童生徒の状況や思いを組織として共有し、課題に対応する。
達成度の判断・判定基準あるいは指標	<ul style="list-style-type: none"> ・命を守る訓練、シェイクアウト訓練が定着し、児童生徒に習慣として位置づいているか。 ・様々な事案に対して報告がなされ、組織的に対応することができたか。また、事後の検証を行い、再発防止につなげることができたか。 ・児童生徒についての情報共有を組織的に行い具体的な解決につなげることができたか。
取組状況・実践内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練が習慣化し、緊急地震速報のアラームで揺れに備える対応を自然にできるようになった。 ・日頃から児童生徒のアクシデントへの意識が高まり、体調の変化も含めて管理職への報告、迅速な対応へとつながった。 ・状況が発生した都度、防災対策委員会、スクールバス検討委員会を臨時で開催して児童生徒が安全に生活できるよう対策を行った。 ・連絡帳や心の相談アンケートなどの情報を管理職と共有し、組織として対

	<p>応することができた。</p> <p>・警察署と連携した不審者対応訓練が実施できた。</p>	
評価の視点		評価
①命を守る訓練、シェイクアウト訓練時の児童生徒、職員の動きが状況に応じた主体的な行動になっているか。		<input type="checkbox"/> A B C D
②悪天候や獣害による状況や発生したヒヤリハット・アクシデント事案に対して委員会や報告書を通して組織で検討し、具体的な対策につなげることができたか。		A <input type="checkbox"/> B C D
③スクールカウンセラーや他機関と協力しながら課題を共有して具体的に取り組むことができたか。		A <input type="checkbox"/> B C D
成果・課題		総合評価
<p>○緊急地震速報からの初期対応については、定着してきた。</p> <p>○頻繁な熊の出没など想定していなかった状況に対してスクールバス検討委員会などで登下校の安全について具体的で持続可能な対策を行うことができた。</p> <p>▲火災報知機、消防署への通報システム、自家発電設備など一部の職員のみが把握している状況である。</p> <p>▲SNS 上のトラブル、フェイク画像など今日的な課題に対して、より実効性のある指導や対応が必要となってきた。</p>		A <input type="checkbox"/> B C D
来年度に向けての改善方策案	<p>・避難所設営マニュアルを見直し、誰にでも視覚的に理解しやすい防災関連設備の取扱説明となるよう見直す。</p> <p>・PTA 研修会等で保護者も含めた SNS の危険性を啓発する機会を設定する。</p> <p>・自力通学生の通学時の安全確保ため、緊急時にスクールバスを利用できるようにスクールバス運行計画などを見直す。</p>	

学校関係者評価 （令和8年2月2日実施）

意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・シェイクアウト訓練の様子を動画で見て、大変重要な活動だと感じた。自然災害はいつ起こるかわからないので万一の際にも冷静に対応できるような備えが重要である。児童生徒の安全を守る教員が、まず自身の安全確保に留意する必要がある。 ・熊出没の問題は、今後も継続していく。児童生徒の安全確保については、何が起こるかわからないからこそ、引き続き十分に検討し、対策を講じていくとよい。 ・今年度、学校行事参観の折に地域の消防関係者と一緒に校舎内の設備を見せてもらった。今後も地域と学校が連携し、防災体制を整えていきたい。 ・児童生徒のそれぞれの障がいへの丁寧な対応により、大変によい支援がなされている。保護者とも課題を共有し、継続した支援を行えるとよい。